

九州周遊 建築散歩

第11回(9月17日)
鉄の街八幡

新日鉄八幡製鉄所跡が残る 八幡を散歩してみませんか。

第11回目の「九州周遊建築散歩」は、北九州市の中央に位置するJR八幡駅から枝光駅周辺を中心に散策します。八幡は1901年の新日鉄八幡製鉄所の操業とともに鉄の街として発展してきました。新日鉄が撤退した現在では昔の気持はありますが、著名な建築家の建物は残っています。今回、お勧めの「いのちのたび博物館」を中心に探索したいと思います。散歩のつもりで気楽に参加してみませんか？

「九州周遊建築散歩」のHPにこれまでの散歩のレポートやお知らせが載っています。是非ご覧ください。
URL : http://esd.env.kitakyu-u.ac.jp/site/01news/000kenchiku_sanpo/00top.htm



いのちのたび博物館とその周辺

現在、新日鉄八幡製鉄所の跡地にはさまざまな施設が建設されています。その中でも最も有名なのはスペースワールドだと思いますが、2002年に今まであった自然史・歴史・考古の3つの博物館が一つになって、いのちのたび博物館が誕生しました。約6,100m²の展示面積を誇る西日本最大級の博物館です。なお、その周辺には20世紀の日本を背負ってきた八幡製鉄所の記念塔である東田第一高炉（もとの第一高炉は昭和27年に解体）をはじめ、当時を偲ばせる新日鉄関係の建物が多く残っています。

左：いのちのたび博物館

見学予定箇所(予定)

旧百三十銀行（辰野金吾:1915年）
旧官営製鉄所事務所（山口半六?:1899年）
旧官営製鉄所修繕工場（GHH社:1899年）
八幡市民会館（村野藤吾1958年）

いのちのたび博物館（久米設計:2002年）
安田工業八幡工場（辰野金吾:1912年）
旧官営製鉄所東田第一高炉（新日鉄:1961年）
新日本製鐵大谷会館（新日鉄:1927年）
八幡信用金庫本店（村野藤吾1971年）

<参考>八幡で見ることが出来る建築家

辰野金吾：1854年佐賀県唐津生まれ。1880年工部大学校造家科（現東京大学工学部建築学科）卒業。日本人最初の建築家として日本の建築界を先導し、近代建築の基礎を築いた。百を優に超える建築を手がけているが、東京駅に代表されるような赤煉瓦と白い御影石を交ぜた華やかなデザインを好み、その手法は「辰野式」と呼ばれている。

村野藤吾：1891年佐賀県唐津生まれ。1918年早稲田大学理工学部建築科卒業。村野建築の特徴は、主義や形式にとらわれない自由な創造活動といわれている。一見、近代的な外観を持つが、空間的というより工芸的で絵画的である。特にその細部には装飾や様式性をも拒まない繊細なデザインがあふれている。

左1：旧官営製鉄所事務所
左2：大谷会館
左3：旧百三十銀行
下：旧東田第一高炉



「九州周遊建築散歩」では次回以降も様々な地域の建築を散策します。分野や専門にかかわらず建築に興味がある方は是非ご連絡下さい。
連絡先：北九州大学国際環境工学部N336（内2342）
担当：E A 堤洋樹 tutumi@env.kitakyu-u.ac.jp

<写真・文章>
旧百三十銀行ギャラリー <http://ga130.hp.infoseek.co.jp/>
いのちのたび博物館 <http://www.kmnh.jp/>
産業考古研究室 <http://bunhaku.hp.infoseek.co.jp/heritage-yahata.html>
建築+街並探訪 <http://www.46.tok2.com/home/arc/main.htm>